

芳賀茂元奉獻「列国議員同盟参列記念」鳥居の建設と移設の経緯について

伊東 かおり

はじめに

かつて宗像市の東郷駅東口から宗像神社に通ずる参道（現・宗像地区消防本部付近）に、石の大鳥居があった【図1】。現在、この鳥居は草崎半島（同市神湊）にある宗像大社頓宮（御旅所）の坂の入り口に、木々に覆われるようなかたちでひっそりと立っている【図2】。本稿では、今では忘れ去られた感もあるこの鳥居の由来を記すとともに、鳥居が現在の場所に移設された経緯についても併せて

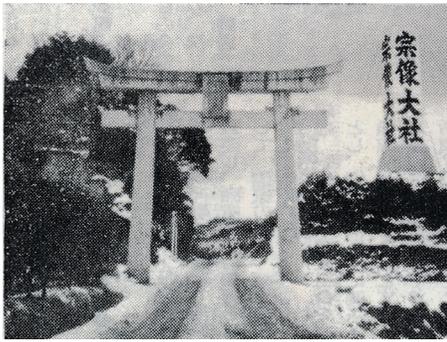


図1 東郷駅前の大鳥居
（『宗像』第27号、1963年3月1日付）



図2 神湊の鳥居
（2020年12月筆者撮影）

紹介したい。

（一）芳賀茂元と列国議会同盟

この鳥居は、形状は明神鳥居で、神額に「宗像神社」、正面右の柱裏に「列国議員同盟参列記念」、左の柱裏に「昭和七年七月二十日」「貴族院議員 八幡市 芳賀茂元」「山口県徳山市 石工 中村藤兵衛」とそれぞれ刻まれている【図3】。

鳥居の奉獻者である芳賀茂元は、芳賀善一郎の次男として一八八七（明治二十）年、遠賀郡に生まれた¹。東筑中学校を卒業後、一九〇九年から八幡市役所に奉職し、八幡市農会副会長や福岡県消防協会理事などのほか、九州土地株式会社相談役、政友会八幡支会副支会長などを歴任した²。この間、地主で多額納税者だった芳賀善次郎³の養子となり、一九二八（昭和三）年に家督を相続したことで、自身も多額納税者となった⁴。その後、五私鉄疑獄事件で起訴された福岡県多額納税者の貴族院議員、富安保太郎が公判中の一九三一年十月二十六日に死去したことで、芳賀は翌年三月八日の補欠選挙を経て、九月まで富安の残り短い在任期間を引き継ぐ形で貴族院議員となった⁵。議員の任期満了後は帝国議会に戻らず、一九三三年に桜麦

図3 神湊の鳥居

- ① 鳥居表面
- ② 鳥居左柱裏
- ③ 鳥居右柱裏
- ④ 鳥居右柱裏下

(全て2020年12月筆者撮影)



酒代表取締役就任したほか、波多野鉄工所取締役や第十七銀行の監査役などを歴任した。また県下の財界のみならず教育界にも重きをなし、一九三九年に福岡大学の前身校にあたる弘文学舎を戸畑に創設するなどしている⁷⁾。一九四八年五月十八日に死去した。

この鳥居は左柱に刻まれた文字が示すとおり、貴族院議員となった芳賀が「列国議員同盟会議」に参列した際に、その記念として建てられたものである。「列国議員同盟」とは、*Inter-Parliamentary Union* という主権国国会議員の国際組織を指す。一八八九年にイギリスやフランスなど欧米の国会議員によって設立された、ジュネーヴに事務局を置く現存する国際組織であり、日本は一九〇八年から現在までその加盟国となっている（以下、今日の呼び名である「列国議員同盟」と表記する）。毎年加盟国の主要都市で開催される年次総会に各国議会の代表団が参加し、軍縮や人権、議会制度の発展等様々な課題を討議することで、議員間の親睦と国際問題への共通理解の醸成を目指すというのが基本的な活動内容である⁸⁾。芳賀の参列当時、日本は列国議会同盟のほかに「万国議院商事会議」(*Conférence Parlementaire Internationale du Commerce*) という国際議員団体にも加盟していた。通常、衆議院も貴族院も一度の渡欧で列国議会同盟と万国議院商事会議双方の総会に参列することが多かったが、内実として列国議会同盟には衆議院が、商事会議には貴族院が主体的に関与することが慣例となっていた。しかし、芳賀が議員だった一九三二年の商事会議は総会が翌年に延期されており、結果的に芳賀らは総会については列国議会同盟のみの参列を余儀なくされた⁹⁾。

この年の列国議会同盟の総会開催は、矢田七郎駐スイス公使の来

電で五月十四日に外務省本省へ通知された。¹⁰ 直ちに両院に回覧され、内田嘉吉、伊澤多喜男とともに芳賀は貴族院からの代表団に選出された。¹¹ 六月二十五日、芳賀を乗せた船は横須賀港を出発し太平洋を横断した。芳賀はアメリカとカナダの各地を視察したのち大西洋を渡ってヨーロッパに向かい、八月二十日からジュネーブで開かれた総会に臨んだ。芳賀は盛会の様子を次のように綴っている。¹²

二十日愈々吾々の会議開会、先づ議長、副議長の選挙に内田〔嘉吉〕閣下は副議長に、小生は又三百幾十名の議員の内の評議員（参事会の如き委員）に、船田中氏、元東京市の助役と二人日本代表に選ばれ、世界の代表の論議は尽きず、中にも伊仏の衝突は大書すべく、伊のムツソリニイ式の腰の強さは驚き申し候。一時停会仕り候。かくて小生無二の光栄にて、時機あれば万国共通の消防協会見た様なものを組織致し度希望を申出づる事に考へ居り候。

芳賀は総会中、船田とともに各国代表団から二名が選出され、議事の日程や委員会の設置、次回総会の開催地等を検討する評議員会のメンバーとなった。総会ではフランス代表がイタリア代表に対して痛烈なフアンズム批判を行ったことで、憤激したイタリア議員団が一時的に列国議会同盟を脱退する事件が発生し、「ムツソリニイ式の腰の強さ」には、芳賀も驚きを禁じ得なかった。

また八幡市の消防組頭を務めていた芳賀は、この渡欧を通じて各国の消防組織や制度に強い関心を持っていた。列国議会同盟において国際的な消防協会の組織を希望した芳賀は、パリやロンドンの消防団を視察して、「欧洲各国の消防は今や単に消火防水に止まらず、

国防的行動、即ち一朝有事の際は直ちに軍隊と協力国防の事に任ずる組織となつて居る」と、有事において消防と軍隊が確固たる協力体制を築いている様を興味深く書き記している。

こうして「各国の産業界、政情など視察の一面、消防の施設研究には最も力を注」いだ芳賀の視察はおよそ四カ月の旅程を終え、十月二十五日芳賀は八幡駅に帰還し、官民有志の出迎えを受けている。¹³

（二）鳥居の奉納経緯

次に、鳥居が建設された経緯を見ていく。宗像神社の社務日誌によると、横須賀から出発する五日前の六月二十日条に「貴族院議員八幡市芳賀茂元ゼネヴァニ於テ開催ノ万国議員会ニ列席ニ付、途上平安祈願ノタメ参拝。奉仕者花田主典」とあり、芳賀が旅の安全祈願のために宗像神社を参拝したことがわかる。¹⁴ この時、鳥居奉納の話が出たことが、社務所が麻生家執事に送った書面で確認できる。

過日宮司より御願申上候俟今日迄御無礼致居候処、昨日八幡市芳賀氏御参拝の節、東郷駅附近に新に鳥居奉納被成下事に相成候。就ては予てより御配慮に預り候貴家の分も、此際御建設相願度、せめて来る十月一日の秋季大祭前には竣成する様、氏子始め一同鶴首致居候間、御懇願申上候。

右によれば、参拝した芳賀と宗像神社との間で、東郷駅の付近に新たに鳥居を奉獻することが取り交わされた。また同書簡からは、宗像神社が以前から麻生太吉に対して鳥居の建設を依頼し、秋季大祭前の竣工を希望していたことも読み取れる。一九三三年に奉獻さ

れ、現在は辺津宮参拝者第一駐車場側にある麻生太吉の大鳥居は、一九三一年の春から建設の話が具体化していたようである。『福岡日日新聞』の三月一日付の報道では、「官幣大社宗像神社で計画中の日本一の大鳥居建設は麻生太吉氏を始め官界、実業界諸有志の寄付申出でがあり、愈具体化し同社務所に於て設計図製作中」とある。ただし、宗像神社の鳥居を麻生が他の「有志」と共同で奉納しようとしたことを示す史料は管見の限り見当たらず、同時期に貝島太市らと建立を計画していた宇美神社の鳥居奉納¹⁹の話と混同されている可能性もある。他方、予定地の国道二号沿いの東郷橋脇の県道が改修幅員工事の対象となり、麻生の大鳥居の建設は遅延する。結局、翌一九三二年十一月に建設の決定はなされるものの「御建設相願ふべき地点完成の上は直ちに御通報可申上」²⁰状況はしばらく続き、麻生の大鳥居²¹より先に芳賀の鳥居の話がまとまり建設に至ることになる。

なお、芳賀が宗像神社に参拝した二日後の六月二十二日、麻生は渡航の餞別を持参し芳賀宅を訪問している。芳賀と麻生は、芳賀が多額納税議員選挙への出馬を麻生に相談するなど懇意²²であった。前述のとおり、麻生はこの年糟屋郡宇美町の宇美八幡宮に鳥居を奉納しており、鳥居建立のアドバイスとしてその詳細が芳賀にも伝えられたかもしれない。

芳賀の鳥居は渡欧中に準備が進行していた。鳥居の建設は麻生と同じく山口県徳山町の石材商、中村藤兵衛に依頼された。八月十三日に中村が麻生家執事に宛てた書簡によれば、「去ル八月八日ニ宗像神社ノ沖津宮石鳥居及ビ芳賀茂元様ノ御鳥居卜式基ヲ弊店ニ御調

製致居候条、建設地ヲ見ニ行キ神社ニテ承リ〔中略〕芳賀茂元様御奉納ノ御鳥居ハ東郷駅ノ所ニ九月末日迄ニ竣工ノ予定」とあり、当初芳賀の鳥居は、芳賀が列国議会同盟から戻る前に竣工される予定であった。だが鳥居の着工は芳賀の帰国後となる。理由は不明だが鳥居竣工後に発行された宗像神社崇敬講社の機関誌である『神光』には、「八幡市在住前貴族院議員芳賀茂元氏は昨夏、万国議員同盟会議列席の事に決定するや、直ちに宗像神社に参拝渡海安全祈願をなしたが、愈々無事に帰朝したので、之を永久記念として、謝恩報謝の為め今回石大鳥居を奉献された。」と説明されており、少なくともある時期から鳥居奉納の目的は、出発前の安全祈願から無事帰国の「謝恩報謝」へと変更されたことになる。

十月二十六日に芳賀は八幡市へ帰還し、帰国の挨拶のため麻生太吉を訪問した²⁷。その後、宗像神社内でも鳥居建設に向けた動きが活発化している。奉献までの様子を、宗像神社の社務日誌から抜粋したい。

十月二十八日

一、宗像主典、芳賀茂元氏寄付二係ル石鳥居来東ニ付東郷町出張、即日帰社。

十月二十九日

一、花田祢宜、宗像主典、鳥居ノ件ニ付東郷町出張、即日帰社。

十月三十日

一、宗像祢宜、沖津宮改築ニ関スル件及芳賀氏奉献鳥居ノ件ニ付福岡市出張。

一、澤渡主典、芳賀氏奉献鳥居立柱祭奉仕ノタメ東郷町出張。

一、花田祢宜、土地購入登記ノタメ東郷町出張、即日帰社。

十一月一日

一、花田祢宜、芳賀氏奉献鳥居ノ件ニ付八幡市出張。

一、宗像主典、吉田主典、芳賀氏奉献鳥居建設ニ関シ東郷町出張。

十一月二日

一、樺本宮司、花田祢宜、芳賀氏奉献鳥居建設ニ関シ東郷町出張。

一、芳賀氏奉献鳥居建設石工飯塚市明治町中村與外約十名参拜、奉仕者花田祢宜。

十一月三日

一、宗像主典、鳥居ノ件ニ付東郷町出張、即日帰社。

十一月二十八日

一、樺本宮司、宗像主典、吉田主典、田村主典、永島出仕芳賀茂元氏奉献鳥居竣工祭奉仕ノタメ東郷町出張、即日帰社。

十一月三十日

一、八幡市芳賀茂元氏家族参拜。修祓、澤渡主典奉仕。

メディアも十一月の初頭には、新しい大鳥居の建設について報道している。五日付の『福岡日日新聞』は、「今回万国議員会出席記念の爲め」、芳賀が宗像神社に奉献した石の大鳥居が、同月二十五日頃竣工式を迎えると報じ、「新国道東郷駅から大井峠に差ししかゝる宗像宮参宮道の山の紅葉をバックにくつきり浮き出てる」と、

鳥居が建つた東郷駅前の情景を伝えている。⁽²⁸⁾

こうして芳賀の大鳥居は建設され、十一月三十日午前十時に竣工式と通り初式、並びに祝賀会が催され、「寄贈者芳賀家親族代表七名の外に来賓として幡掛宮崎宮司、小崎東郷署長、花田郡農会長、各町村長、宗像中学校校長、宗像高等女学校校長、小学校校長等八十余名」参列して盛大に行われた【図4】。

『神光』は、芳賀の大鳥居について、

高さ二十余尺、場所は、東郷駅から大井の峠にさしかゝる峠口で、山を背景にくつきりと浮出した白い姿が著しく行人の目を惹く。東郷町を經由する路線は甚だ迂回の憾あるが、将来はこの鳥居を目標に参拝される方が増えて、新国道の開通の暁は、自然この鳥居を一ノ鳥居とする直線参道が出来るものと思はれる。

と、建てられたばかりの鳥居の美しさを記し、東郷駅周辺のランドマークとなることに期待を寄せている。⁽³⁰⁾

なお、筆者は芳賀が同様の「列国議員同盟会参列記念」の石鳥居を、宮地嶽神社にも一基奉納していることを確認している【図5】。宗像神社以外に奉献された芳賀の鳥居については、今後の課題と



図4 「芳賀氏寄附の大鳥居竣工式」(『福岡日日新聞』1932年12月1日付)

したい。

(三) 戦後の移築経緯

芳賀が奉献した大鳥居は、以後三十年余りにわたり東郷駅からの参拝者を出迎えた。だが、戦後県道の拡張が検討される中で、鳥居の移設案が浮上する。社務本局発行の月報『宗像』によれば、一九六三年の二月頃「福岡県土木事務所より県道拡張の理由を以って現在道路上にある鳥居移転の要請があり」、「神社側としてもそれに賛同し、早速に移転計画を立て」ることになった。⁽³¹⁾

こうして移設が決定され、陸上自衛隊第四師団司令部施設課の応援を得て、「大村自衛隊竹松駐とん地の第四中隊長一等陸尉児玉義秋氏以下十七名の隊員の手によって」同年五月二十五日に鳥居の解体作業が行われた【図6】。当日は一時的に激しい雨が降るなどの悪天候だったが、「訓練を重ねて来た隊員の作業は見るからに活発で、スピーディな動作にはみている大衆を驚かせるものが」あり、「自衛隊員の懸命な動きによって一日のうちに解体移転の作業をやつてのけ」るほど迅速だった。⁽³⁴⁾一方で、作業の経過を見守るうちに、大鳥居の技術に対する感嘆の声も挙がった。⁽³⁵⁾

解体された大鳥居を見て感心させられたことは、当時クレーン車、トレーラ車等の如き文明の「力」はなかったにもかかわらず、実に力学的な技術を以って築かれていることである。今の現代文明の世に在る人間に取っては、想像もつかないほどの威力を感じさせかつ驚嘆させるものがある。

さて、解体作業の時点で鳥居の新たな設置場所はまだ確定していなかった。そこでひとまず「現在神湊の草崎半島一帯の土地を買収して頓宮の神籬形式の磐境を建設する準備が着々と進められているので、そこに移してはどうか」という意見もあり、取り敢ず頓宮用地の近くに移⁽³⁶⁾すことになった。その後、右にあるとおり草崎一帯の頓宮建設用地の購入が進められ⁽³⁷⁾

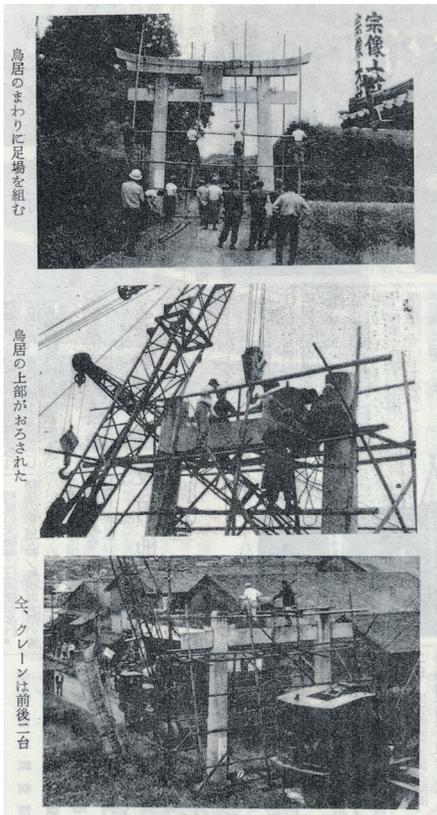


図6 解体作業の様子
（『宗像』第31号、1963年7月1日付）



図5 宮地嶽神社の芳賀奉献鳥居
（2020年11月筆者撮影）

一九六七年三月四日に頓宮建設用地の造成工事が完成する⁽³⁸⁾。その前の二月二十三日に芳賀の鳥居は頓宮参道入口に再建され、以上の経緯により鳥居は現在の位置に所在することになったのである⁽³⁹⁾。

おわりに

本稿は、草崎半島にある頓宮入口の石鳥居の由来について、同時に奉献された麻生太吉の大鳥居との関連性を含めて検討した。現在と異なり、欧米への旅や出張が容易ではなかった時代、芳賀は石の大鳥居を奉献して旅の安全を祈願し、無事を報謝した。他方、宗像神社側にとっても東郷駅前にランドマークとなる大鳥居を得たことは大いに歓迎するところであったことは想像に難くない。神社側や地元東郷町からの視点は本稿では余り取り扱うことができなかったが、戦前の宗像神社復興運動などとの関連とも併せて今後検討を深めていきたい。

註

- (1) 人事興信所編『人事興信録 第十一版(昭和十二年)下』(一九二八年、人事興信所) 八一頁。
- (2) 「芳賀茂元貴族院令第一条第六号ニ依リ貴族院議員ニ任スルノ件」『任免裁可書 昭和七年 任免卷三十一』(国立公文書館所蔵)、および衆議院・参議院編『議會制度百年史 貴族院・参議院議員名鑑』(一九九〇年、衆議院) 二一六頁。
- (3) 人事興信所編『人事興信録 第八版(昭和三年)』(一九二八年、人事興信所) 八七頁。および福岡大学75年史編纂委員会編『福岡大学75年の歩み 事典編』(福岡大学、二〇一四年) 一八頁。

- (4) 人事興信所編『人事興信録 第十一版(昭和十二年)下』(一九二八年、人事興信書) 八一頁
- (5) 『官報』一九三二年三月九日付(大蔵省印刷局、一九三二年)、および『貴族院要覽 昭和二十一年十二月増訂 丙』(貴族院事務局、一九四七年) 三九頁。
- (6) 一九三七年にも同様に多額納税議員補欠選挙に出馬したが、出光佐三に敗れている(「福岡多額議員選挙」『朝日新聞』一九三七年一月二十七日付二頁)。
- (7) 前掲『福岡大学75年の歩み 事典編』一八頁。一九四四年に九州専門学校が福岡大学の前身校にあたる福岡高等商業学校に統合されると、財団法人を解散して不動産の全てを福岡県に寄付している(同所)。
- (8) 列国議会同盟の活動の詳細と日本との関わりについては拙著『議員外交の世紀——列国議会同盟と近現代日本』(吉田書店、二〇二二年)を参照のこと。
- (9) 昭和七年四月五日付・芳沢謙吉外務大臣宛藤尚武駐ベルギー特命全權大使電信第二六号(外務省外交史料館所蔵「万国議員商事会議関係一件」(B-10-13-0-1) 所収、JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. B04122553000 (三七画像目))。なお、商事会議の評議員会はオスタンドで開かれ、芳賀は参加している(前掲『議會制度百年史 貴族院・参議院議員名鑑』二一六頁)。
- (10) 昭和七年五月十三日付・芳沢謙吉外務大臣宛矢田七郎駐スイス公使電報第一二二号(外務省外交史料館所蔵「万国議員同盟会議関係一件」第一卷(B-10-13-0-2_001) 所収、JACAR Ref. B04122553100 (八五画像目))。
- (11) 昭和七年六月十六日付・有田八郎外務次官宛長世吉貴族院書記官長

来信貴庶第一八二号（前掲「万国議員商事會議關係一件」所収、JACAR Ref. B0412253000（四五画像目））。

- (12) 芳賀茂元「万国議員会席上より 国際消防協会設立の提案」『大日本消防』六（一〇）、一九三二年十月、五頁。
- (13) 拙著、前掲『議員外交の世紀』一三〇～一三一頁。
- (14) 「最近の欧米とくろく」万国議員総会に臨んで帰つた芳賀前貴族院議員談」『福岡日日新聞』一九三二年十月二十六日付。
- (15) 同前。
- (16) 「社務日誌」昭和七年六月二十日条。
- (17) 昭和七年六月二十一日付・麻生太吉本邸執事宛宗像神社社務所書翰（「昭和八年十一月官幣大社宗像神社奉納鳥居事蹟」九州大学附属図書館付設記録資料館所蔵「麻生家文書」た八三所収）。
- (18) 「宗像神社の大鳥居 愈々具体化」『福岡日日新聞』一九三一年三月一日付。
- (19) 宇美町誌編さん委員会編『新修宇美町誌 下巻』（宇美町、二〇一〇年）四一頁。
- (20) 昭和七年十一月十八日付・麻生太吉宛樺本憲昌宮司書翰（前掲「麻生家文書」た八三所収）。
- (21) 麻生の大鳥居は一九三三年十一月十三日に予定どおり東郷橋脇の県道に奉献され（宗像大社復興期成会編『宗像大社昭和造営誌』宗像大社復興期成会、一九七六年、六三七頁）、一九六六年と一九七一年の二度にわたる移築の結果、現在の場所に設置されている（同書、三二七、六七八頁）。
- (22) 麻生太吉日記編纂委員会編『麻生太吉日記 第五卷』（九州大学出版会、二〇一六年）一九三二年六月二十二日条。
- (23) 前掲『麻生太吉日記 第五卷』一九三二年二月六日条。
- (24) 昭和七年八月十三日付・麻生本家執事宛中村藤兵衛書翰（前掲、「麻生家文書」た八三）。
- (25) 「芳賀茂元氏石大鳥居奉献」『神光』第一号、昭和八年一月二十日付、七頁。
- (26) 前掲『福岡日日新聞』一九三二年十月二十六日付。
- (27) 前掲『麻生太吉日記 第五卷』一九三二年十月二十六日条。
- (28) 「芳賀氏大鳥居奉献」『福岡日日新聞』一九三二年十一月五日付。
- (29) 「芳賀氏寄附の大鳥居竣工式」『福岡日日新聞』一九三二年十二月一日付。
- (30) 「芳賀茂元氏石大鳥居奉献」『神光』第一号、一九三三年一月二十日付。
- (31) 「大鳥居移転」『宗像』第二七号、一九六三年三月一日付。
- (32) 「大鳥居解体作業終わる」『宗像』第三一号、一九六三年七月一日付。
- (33) 前掲『宗像大社昭和造営誌』六六三頁。
- (34) 前掲「大鳥居解体作業終わる」。
- (35) 同前。
- (36) 同前。
- (37) 前掲『宗像大社昭和造営誌』六六四頁。
- (38) 同前、六六六頁。
- (39) 同前。

（いとうかおり 近代部会）